



# 桜風

合志市立西合志中央小学校学校だより

校訓【健康 工夫 協同】

令和5（2023）年2月18日 第10号

文責：校長 佐藤 正貴

## 持久走を通して、思い返したこと。

昨年の12月に予定していた持久走大会を、1月下旬から2月上旬にかけてようやく実施することができました。平日の午前中にもかかわらず、多くの保護者の皆様方に応援いただき感謝申し上げます。

私が子どもの頃も、学校で持久走大会が行われていました。画図湖の中の周回コースや水前寺陸上競技場を走ったことを覚えています。当時は「速い＝すごい人」「遅い＝…」という考えや雰囲気主流でした。順位や記録にこだわりながら、個人が努力することはすごく価値があることだと思います。また、自分だけの目標を持って取り組むこと（例えば、この時間内にゴールする、最後まで走りきる等）も同じように価値があることです。目標達成は称賛に値することであり、達成できなくても次につながればいいだけのことです。一番まずいのは、他者との比較によって評価したり、価値付けをすることです。以前の私は、多分そんな人間であったと思います。自分を基準として、様々な場面で優劣を付けながら生きていることが当たり前でした。自分よりできない人を見つけて満足したり、安心したりするような生き方だったと思います。

そんな自分を振り返りながら、変わりたいと思えたのは、教員生活の初年度に菊池に赴任してからです。菊池の地で今も学び続けている人権教育は、私自身の意識や価値観を少しずつ変えていってくれています。これまでも、これからも多くの子どもたち、保護者、地域の方々に出会っていくのが教師という職業です。人の数だけ思いがあり、価値観があります。その一つひとつに出会うことが、私自身の学びであり、人としての幅を広げてくれるものであると考えています。



## 子どもたちの笑顔が…素敵でした。

2月8日（水）の午前中、本校と第一小学校の1年生児童とサロンの方々との昔遊び交流会を行いました。棒渡し、紙飛行機づくり、お手玉、おはじき、あやとり等、体育館と1年生教室に分かれて活動しました。サロンの方々の優しい説明と指導で、子どもたちは終始笑顔で活動できました。笑顔の理由はそれだけではなかったように思います。上手くできたときは、一緒に喜び、誉めてもらえる、うまくいかないときは一緒にやってもらえる安心感なども大きかったように感じました。子どもたちの笑顔で、サロンの方々も笑顔になり、とてもいい交流ができたと思います。

現在、コロナの影響で控えていた活動を徐々に再開していく方向で進んでいます。新型コロナが出てくる前は、当たり前に行っていた活動ですが、今は活動ができること自体に感謝です。人とのつながりをしっかりと確かめることができた学習の機会となりました。

